第5グループ テーマ

人権に配慮した保育士の関わり
～人的環境・物的環境～

個々に合わせた環境づくり（5歳児・竹馬遊び）

場面

クラスの子どもたちが竹馬遊びに夢中になっています。集団行動は難しく、自分の世界の中で大人と遊ぶことが多いＡさんも、興味がある様子です。しかし、乗ってみるとうまくいかず、「足が痛いの」「恐い」とマイナスなイメージをもち、挑戦してもすぐにあきらめ、やめてしまいます。

保育者の思い

年長になり周りの友だちと同じものに興味をもったり、集団遊びにも少し入ったりする姿が出てきたＡさん。

竹馬遊びにも興味をもっているので、友達と一緒に竹馬遊びを楽しんでほしい。

保育者のかかわりとその意図

保育者は、竹馬遊びにも興味をもって挑戦している姿を嬉しく思い、見守っていました。しかし、Ａさんは、挑戦してもすぐやめてしまいます。バランス感覚が弱く恐怖心も強いので、できない！と思ってしまっているようでした。

そこで、本児でもできるような安定した竹馬があれば挑戦できるのではないかと考え、近くに住む村の大工さんに相談をしてみました。すると、接地面の広い補助足を考案し、無償で作ってくださったのです。

早速出来あがった竹馬をＡさんが試してみました。乗ってもふらつきがないので一歩、二歩と自分で歩くことができて、とても嬉しそうです。その後も自分から乗って遊び、運動会ではその竹馬で友だちと一緒に参加して、みんなと同じ距離を完歩することができました。Ａさんも保護者の方も、みんなと一緒にできて満足感を感じられたようです。

Ａさんも、運動会で完走することができました。

保育者がＡさんの「みんなと同じことをやりたい」という気持ちの育ちを見逃さず、物的環境を整えたことで、Ａさんも満足感、達成感を得ることができました。子どもたちの思いや育ちをみとり、寄り添う姿勢をもちたいと思います。

また、この竹馬遊びでは、大工さんにお願いし協力が得られたことで、とても精度が高く安定したものを作ってもらうことができました。環境作りを広く捉え、地域に発信したことで実現しました。自分だけで解決しようとするのではなく、同僚や地域の方の協力を仰ぐことも保育者の大切な関わりです。

第5グループ
テーマ

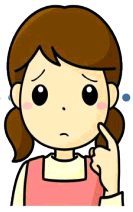
人権に配慮した保育士の関わり
～人的環境・物的環境～

発達に合わせた環境づくり（3歳児・ぽっくり遊び）

場面

クラスの子どもたちが楽しんでいるぽっくり遊び。しかし、Aさんは、うまく乗って歩くことができません。足首の力が弱く、歩行の発達がゆっくりなAさんには、高さのあるぽっくりに乗ることが難しいようです。

市販のぽっくりには、高さがあります。



保育者の思い

Aさんにも、みんなと一緒にぽっくり遊びを体験してほしい。
Aさんが安心して「やってみたい」と思える代替品はあるかな。

保育者のかかわりとその意図

既成のぽっくりは高いため、うまく乗れないようです。保育者は、Ａさんがどうしたら安心して取り組めるだろうか思案しました。保護者からの提案を受けて、牛乳パックを用いて低いぽっくり作りに取り組んでみました。牛乳パックなら、高さを変えることもできます。紐を持つことで足を持ちあげられるように工夫しました。Ａさんの気持ちを考え、友達と同じ色になるような配慮もしました。

裸足で歩くことにも抵抗があったので、まずは室内で一歩ずつから始めました。牛乳パックの素材によって足全体を覆う形状となり、安定して歩くことができるようです。

使い方に慣れてきてから園庭で挑戦しました。保育者に見守られ、友達の姿にも刺激を受けながら、園庭でもみんなと一緒に歩けるようになってきました。

高さを変えて作ってみました。
Ａさんは興味をもってくれるかな？

みんなと一緒に乗ることができて、Ａさんも嬉しそうです。

子どもは一人一人異なる資質や特性をもっています。乳幼児期は、同じ年齢や月齢であっても、身体の特性や発達の足取りなど、個人差がたいへん大きい時期です。発達を十分考慮し、物的・人的環境に配慮することが、一人一人を大事にすることであり、発達を促すことにつながります。

第5グループ
テーマ

人権に配慮した保育士の関わり
～人的環境・物的環境～

発達の個人差を考慮して（3歳児・風船遊び）

場面

身体を十分に使って楽しく遊ぶことを目的に、風船遊びをしました。クラスの子どもたちが歓声を上げながら風船をポンポンとついて遊んでいる中、Ａさんはすぐにやめてしまい、床に寝転んだり、廊下に出てしまったり…。

保育者の思い

普段から気持ちが移りやすく、すぐに違うことを始めたり、部屋を出てしまったりすることの多いＡさん。

そんなＡさんにも、もっと風船遊びを楽しんでほしい。

保育者のかかわりとその意図

もしかしたら、Ａさんにとって、自分で風船をついて遊ぶことは運動能力的に難しいのかもしれない…。そう考えた保育者は、Ａさんに向けた配慮として、風船にスズランテープをつけ、天井の梁に留めるという環境設定を行いました。すると、周りの子どもたちが、早速それらの風船で遊び出します。Ａさんはしばらくその様子を見ていましたが、直に友達と同じように、吊るした風船で遊び出しました。とてもよい笑顔です。そして今度はすぐにやめたりせず、その風船を何度も何度もついて遊び、他の子が飽きてきても最後まで続けている姿が見られました。このことから、風船を吊るしたこの環境設定は、Ａさんの運動能力に適していたのだと考えられます。

こんどは、おもしろいよ！！

Ａさんは、最後まで夢中になって遊んでいました。

同年齢のクラスでも、月齢や特性により、身体や運動能力の発達には個人差があります。遊びや活動の準備をするときには、子どもたちの様子を思い浮かべ、一人ひとりに合った環境づくりをすることが大切です。

すぐに遊びから離れてしまう子は、遊べない子、意欲のない子、集中力が続かない子…ではなく、遊びたいのにうまくできなくて、切ない気持ちになっている子かもしれない…。そうした視点をもち、個人差に配慮した一工夫ができると、夢中になって遊ぶ姿や素敵な笑顔に出会えることと思います。

第5グループ テーマ

人権に配慮した保育士の関わり ～人的環境・物的環境～

言葉の環境を整える（5歳児・絵本の読み聞かせから話し合いへ）

場面

子どもたちの様子を見ていると、相手をきずつけてしまうような言葉を使ったり、友だちの名前を呼びすてにしたりするなど、言葉使いが気になります。メディアの影響が大きいのだろうと感じています。また、言われた言葉で嫌な気持ちになり、友だちとの関わりも上手くいかないことが多くなってきました。その都度、子どもたちに話をしていますが、保育者の言葉だけでは伝わりにくいようです。

保育者の思い

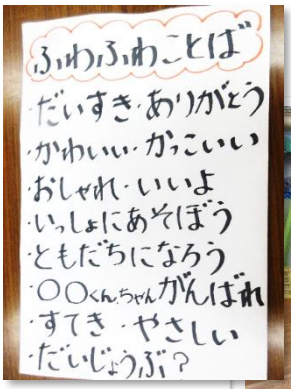
友だちや周りの人への言葉のかけかたを考え、言われると嫌な気持ちになる言葉があるということに気づいてほしい。そして、自分を大切にし、相手の気持ちも思いやることができるようになってほしい。

保育者のかかわりとその意図

絵本を通してなら子どもたちも理解しやすく伝わりやすいのではないかと考え、絵本の読み聞かせをしました。その後、子どもたちと話し合い、「ふわふわことば」と「ちくちくことば」にはどんな言葉があるかを聞いてみました。出された言葉を紙に書いて張り出しておくことで、子どもたちが自分たちで意識をし、「ちくちくことばで嫌だった」と気持ちを伝える場面が多くなりました。また、「ふわふわことば」と「ちくちくことば」を言われた時の気持ちも話し合ったことで、お互いに意識し合い、相手の気持ちにも気付けるようになり、友だちへの言葉のかけ方や関わり方が少しずつ良好になってきたと感じます。

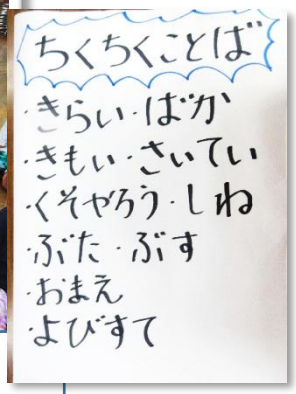
また、子どもたちと話し合いをすることで、保育者自身も言葉かけにより一層注意を払えるようになりました。

読み聞かせをした日のこと。家に帰ってからお家の人に絵本の話をし、「『早く〇〇して！』は〈ちくちくことば〉だよ」と親に伝えた子もいたようです。保護者からは、「ドキッとして考えさせられました」という感想をいただきました。



ふわふわことばを聞くとどんな気持ち？

・うれしい気持ちになる　・たのしい　・心がもどってくる
・明るい気持ち　・元気になる



ちくちくことばを聞くとどんな気持ち？

・かなしい　・いやな気持ちになる　・心がなくなっちゃう　・さみしい

「人権」ということを子どもたちに伝えるのは難しいですが、きっかけとして絵本を読み聞かせたことで、子どもたちには分かりやすく伝わったようです。保育者が「これはいけないことだよ」と押しつけても、子どもたちには響きません。子どもたちが自ら気づき、行動できるようにすることが大切であり、絵本の読み聞かせやその後の話し合いは、有意義な活動だと言えます。また、保育者にとっても、保護者にとっても、自身の人権感覚を高め、改めて言葉を見返す機会になるでしょう。

第5グループ テーマ

人権に配慮した保育士の関わり ～人的環境・物的環境～

みんなと同じだよ（4歳児・鉄棒遊び）

場面

女の子３名が鉄棒で遊んでいます。その中のＡさんが鉄棒で“つばめ”をやりました。それを傍で見ていたＢさんは、

「Ａちゃん、“つばめ”上手だね！小さいのによくできるね～」と声をかけました。

Ａさんは、「うん」と返事をして、何回か“つばめ”を繰り返した後、砂場の方に走っていきます。すると、その様子を見ていたＣさんは、

「Ａちゃん小さくないよ。同じ〇〇組だよね～」と言いました。Ｂさんは、

「そうか…、Ａちゃん、すごいなあ。私、あんなにうまくできないよ」と答えました。

保育者は安全面を考え、“つばめ”をやるＡさんの側で見守りながら子どもたちの会話を聞いていましたが、Ｂさんの「小さいのに…」という言葉が気になりました。

保育者の思い

「小さい」という言葉は、Ａさんの見た目からなのか、それとも遊びや生活の中で、思い通りにならないとその場から離れたり大声で怒ったりすることがあるＡさんの姿から出たものなのか…。

Ｂさんに悪気はないだろうけれど、言われた相手の気持ちを考えられるようになってほしい。

保育者のかかわりとその意図

Ｂさんの「小さいのによくできるね～」という言葉を聞いていたＣさんは、自身の人権感覚から、「同じクラスのお友だちを“小さい”と言うのはよくない」と感じたのでしょう。保育者は、それを言葉にしているのは素晴らしいことだと思いました。ただ、この場面では、Ｂさんは、Ａさんの姿を見て素直に「すごいなあ」と認めている、そしてＡさんにとっては、友だちに褒めてもらったことで自信につながっていると思われました。そこで、保育者はその場では指摘せず、Ａさんに対して「腕や体が伸びていてきれいだね」と声をかけました。

クラスでの振り返りの場面でも、クラスのみんなには「小さいね」という言葉は伝えず、Ａさんが腕を真っすぐ伸ばし、きれいな“つばめ”をすることができたこと、それを友だちが見ていて「すごいね」「上手だね」と褒めたこと、褒められると嬉しい気持ちになることなどを伝え、お互いを認め合いました。

クラスで振り返りをしました

ほめられるとうれしいね

子どもたちの生活の中では、様々な場面があります。

- フリルの付いた服（妹のもの）を着て登園する男の子
- 吃音の子
- 排泄の失敗をする子、おねしょをする子　　等々

子どもたちは、悪気がなくても、相手の気持ちなど考えずに思った事を口に出してしまいます。保育者は、日頃から自らの人権感覚を磨き、見逃さないことが大切です。しかし、それを決して責めるのではなく、「今はいろいろなことを練習しているんだよ」「見た目が違っても、できること、できないこと、みんな違うけど、それでいいんだよ」と繰り返し伝えていきたいと思います。

絵本の読み聞かせをして、心を育んでいくこともよいでしょう。

参考図書：「ともだちやシリーズ」　「わたしはあかねこ」

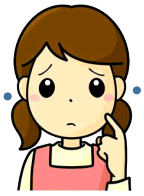
第5グループ テーマ

人権に配慮した保育士の関わり ～人的環境・物的環境～

着替え時の人権に配慮して（プール遊び）

場面

保育園という環境の中で、日常的に着替えという行動があります。日々の中では個別に対応することができますが、プール・水遊びを行う時は、一斉に着替えることになります。保育園には更衣室の設置がないため、保育室を使いますが、中の様子は園外からも容易に見ることができてしまうので、子どもたちのプライバシーを守ることができません。また、保育室の余裕がない限り、男女同室での着替えとなってしまいます。



保育者の思い

子どもたちの人権に配慮し、着替えの様子を園外から見ることができないようにしたい。男女一緒だと“恥ずかしい”という思いをもっている子もいるので、できれば男女を分けて着替えられるようにしたい。

子どもたちの自分で着替えたい気持ちを尊重し、着替えも遊びの一環として捉えることで、人権に配慮した環境の工夫をしていきたい。

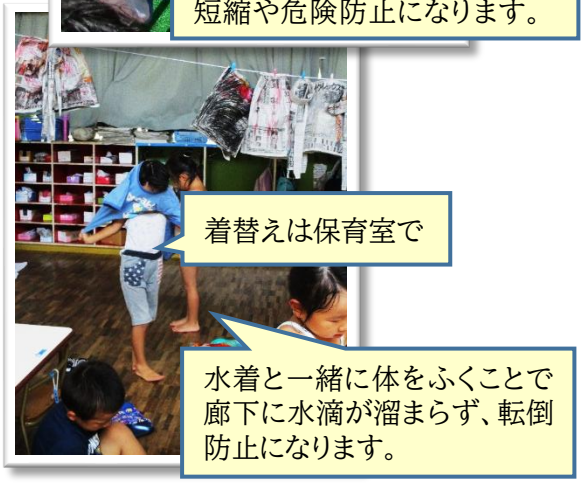
保育者のかかわりとその意図

園外から保育室の中を見られないようにするため、着替えの時には午睡用のカーテンを閉めることにしました。

身体についた塩素を流す時も、これまでは子どもたちのやり易さを優先して水着を脱いでシャワーを浴びていましたが、園外から見えてしまうため、水着のまま行うようにしました。塩素の流し方は、保育者が丁寧に伝えることで、日々上手になっています。

また、子どもたちのタオルをシャワーの隣に置くようにしました。直ぐに体にかけることができ、動線もスムーズになりました。さらに、着替えをプールの出入り口に置くようにしたことで、避難時の対策となる利点も生まれました。

男女の着替えを別にすることは、今後の課題です。子どもたちの思いを聞きながら、「保育室の中に間仕切りを置く」「廊下を利用する」等、できる工夫をしたいと思います。



園舎などの環境でスムーズに環境を整えることが難しい場合もありますが、できるところからやってみることが大事です。子どもの思いや動線を見直すことで、工夫する視点が見えてきます。考えているだけでなく、やってみることで見えてくるものもあります。保育者だけの考えでなく、子どもたちと一緒に考えることで、生まれてくるアイデアもあるでしょう。

「シャワーを裸で浴びるのは恥ずかしい」「男女一緒に着替えるのは恥ずかしい」など、子どもたちと保育士の感覚を同じにすることも、人権に配慮する上で大切なポイントです。